

世界遺産

『富士山』に因んで

二十回生 井出（藤川）敏

今月七月一日は、『三保の松原』を含めて、世界遺産となつた富士山への山開きの日です。

その様子を色々な報道で知り、国民として誇らしい、嬉しい日でした。

頭を雲の上に出し

四方の山を見下ろして

雷さまを下に聞く

富士は日本一の山

『なつかしい歌です』

今年は、その富士にあやかつて『思い出』でも・・・とペンを執りました。

(一) 千里第二小学校五年・六年生星組（終戦は三年生八月でしたが五年生から男女共学になりました。）で二年間同級だったワンパクY・H君が昭和二十三年の夏休みが終わり、二学期に入ってすぐの『夏休みの思い出』としての陳列品に、富士登山の折の『金剛杖』とその他のグッズを出品されました。金剛杖と云う言葉さえ知らなかった私は、まだ世の中もすっかり落ち着いていない夏休みをご両親とご一緒に富士登山をされたH君を羨ましく、私とは、住む世界が違う人らと見ていた記憶があります。彼は、千二校を卒業後、同志社中・高・大学を出られ社会人になりました。同窓会では何度かお目に掛かり旧交を温めました。数年前に早世され今ではこんなことでも懐かしい思い出です。

(二) 私の父の出生地は、三重県志摩市阿児町国府で、私達は夏休みには幼少より祖父母の住む海の近い家で過ごしていました。雨の日も風の日でも平気で殆ど海遊びをして、夏休みが終わる頃には、皮膚が何度も剥げて、前後がわからない（？）と云われる程の『黒ん坊』になって帰阪した思い出があります。最近では疎遠になっていますが父母・先祖の墓参りを

兼ねて年一度位は行くようにしています。この地は、国立公園の中に属し、太平洋に向かって、右は『波切灯台』、左は『安乗灯台』その真中の海岸線が国府の白浜（こののしらはま）と呼ばれる白砂青松の美しい砂浜ですが、晴天の早朝には、富士の頂きが見えます。（富士山頂が見える南限か？）私には富士の雄姿が見える南限かどうかは知りませんが、早朝に日の出を拝みに浜へゆき障害物のない大海原の上方に富士が見えた日は、何か縁起の良いことが起こることを期待して、たびたび出かけたことが思い出されます。大学二年生の夏休みに友人四人で『バレー・ボール』の試合が東京であり、その帰途初めて『富士五湖めぐり』のバス・ツアーに出かけました。冬期の富士は、列車からでもよく臨めますが、春・夏は、中々全容が見えず、この時も五湖めぐりの間、満足な富士が見られず残念に思いつつ帰阪しました。後年『河口湖』で新年を迎えた折『これこそ富士の全容』と感激したことがあります。いつ見ても、初夢ではないですが『一・富士』『二・鷹』『三・茄子』^{なすび}です。

『先祖は同じ』と云う気安さで色々ともてなしていただき、家宝の数々を拝見させてもいただきました。鎌倉殿拝領の木盃・銅鏡・紗。今川義元の安堵状・その子息氏真の手紙・古文書 曾我八幡縁起・曾我五郎・十郎兄弟が仇討の時法華経を入れた経筒、北條氏直筆の色紙等、目を見張る珍重する品ばかりでした。昼食までご馳走になり休憩させていただきましたが、次の機会には桜満開の時に・・・と思いつついまだに行けない実情で、来年こそは・・・と思っている日々です。

終

《追記》

千里山会・会誌第四号より、早や十回も作品を掲載させていただきました。今後もよろしくお願いいたします。

なお、下段の写真は、富士宮市狩宿の井出家下馬桜です。指定天然記念物 狩宿の下馬ザクラと書かれています。



(三) あわれその駒のみならず見る人の
心をつなぐ山桜かな

後一位 徳川 慶喜

床の間に慶喜公自筆の軸が掛けられている富士宮市狩宿の井出家を訪問したのは三十年前の十月でした。前年の秋に九十三歳の天寿を全うした母が『井出家の祖父は、富士南麓にあるから、一度は訪ねてみたい』と常々云いながら望み叶わずでしたので、母の一周忌を小田原の菩提寺で行う途中に訪問させていただきました。静岡から身延線に乗り換え、富士登山の表玄関と云われている『富士宮』へ。そこから自動車で約四十分乗り、『白糸の滝』に源を持つ『芝川』のほとりに降り立ちました。国指定天然木『駒止桜』の奥に井出家は、昔ながらのたたずまいで威容を誇っていました。長屋門の前の頼朝が狩りの時、馬をつないだと云われている老桜は、今なお花を咲かすそうです。先年、皇太子様（浩宮様）が歴史の勉強に來られ休憩された離れ座敷に、我々も通していただきました。富士全容が借景となるすばらしい庭に、我々一同も絶句してしまいました。